



JEG ニュースレター 127号

www.jegch.jimdo.com

2012年7月28日発行

小さな証

スイスに住み20年、それは苛酷な病との戦いの連続だった。しかし、その病の中で得た恵みと信仰とは。



スイスJEG礼拝

23年前、札幌のOMFの語学センターで師弟関係にあった松本牧師とゲルスタ牧師の二人がスイスで再会！



ANRC12

欧州で世界でイエス様と出会い、主に仕える者とされ、祖国で働くキリスト者の集いがこの11月開かれます。



アジア・キリスト者の集い

ヨーロッパ・キリスト者の集いをモデルに第一回アジア日本語教会ファミリーキャンプが開かれました。



小さな祈り

驚くべきことに、
十字架の血潮のゆえに
聖なる神から
「聖なる者」とみなされている私たちが
その奥義を聖霊の力によって
深く知ることができますように。

見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんとというしあわせ、なんとという楽しさであろう。
詩篇133:1



ヨーロッパ・キリスト者の集い



日本 All Nations Returnees Conference



南カリフォルニア・クリスチャン・リトリート



アジア日本語教会ファミリーキャンプ

神様の編まれるネットワーク

祖国日本を離れて暮らす日本人は100万人を越え、ヨーロッパでも20万人もの邦人が散らばって暮らしています。祖国での因習と伝統から自由になった日本人が、異国で福音に触れ、主イエスに従い、神と人ともに仕える者とされ、新しい人生を歩んでいます。そして祖国を愛する日

本人、また日本語を話すクリスチャンに神様は絶妙なるネットワークを編んでくださいました。8月1日から始まるヨーロッパ・キリスト者の集いを前に、世界に広がる「キリスト者の集い」の数々を、今月号は特集してみました。

ちいさな証

病が与えられて19年

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会会員

主の御名を心から賛美致します。

今、こうして証を述べさせて頂ける恵みに感謝いたします。

早いものでスイスで生活するようになってもうすぐ20年になります。そして、痛みのある病が与えられてから19年が経ちました。いつ死んでもおかしくないと言われながらまさかこんなに長い間、生かしていただけるなんて思いもしませんでした。

スイスに来てから、これでもかというぐらいたくさんの試練が与えられ、何度も打ちのめされ絶望し“神様もうだめです”と何度泣き叫んだことでしょうか。でも、その度につまずいてもころんでも、どんなに主を遠くに押しやり孤独の中どん底に沈んでいても、主を近くに感じることができないようなそんな時ほど、神様はすぐ側にいて慰め、支え、そしていつも守って下さっていました。

これまでのことをお話すると“強いね。”とよく言われるのですが、決してそんなことはなく、誰よりも弱いからこそ与えられたのだと思いますし、私の力だけでは耐えることはできなかつたことでしょう。

主がいつも共にいて支えてくださったので、病が与えられたことを、自分の賜物として感謝できるようになりました。そして、主を知らずに苦しんでいるすべての方が、主に出会って救われるようにと祈れるようになったことも、日々痛みがあって出来ないことが増えても、笑顔を忘れないでいられることも、身体障害者として生かされていることを苦にせず居られることも、すべてが私には到底できないことなのです。

従順な99匹を残してでも自分から離れてしまった一匹のために、必死になって探し見つけ出し、安全な場所まで大切に抱きかかえて連れ戻して下さる、愛と憐れみに満ちた方が共にいてくださるといことが、どれほど幸せで感

謝なことか、神様から離れさえしなければ何も心配することはないんですよ。

それを知っていながら主を悲しませることばかりし続け、信仰生活が長くなればなるほど、御言葉を学べば学ぶほど、自分の罪がどれほど深く大きなものであるかを示されます。自分の信仰だけを思えば絶望するしかないのですが、決して揺るぐことのないお方が“何があっても離れず見捨てたりしない”と約束して下さいますし、私達を創られた唯一の神様はいつもご自分の方から御手をのべて下さる愛そのもののお方です。その神様の愛をどう受け止め、どのように応えているのか？と問われたとき、本当は愛される資格のない私が一方的に愛されているのに、その愛に全く応えていなかったことに気付かされました。



私は主に従うのであって主を従わせてはいけないと頭ではわかっているが、ちっとも行いが伴っていないし、いつの間にか自分が中心になっていて呆れるばかりです。それでもその度に辛抱強く、考えられないほどの忍耐を持って私を訓練し、悔い改める機会を与えてくださいます。

これから先も、たとえ理解できない様なことが起こったとしても、一秒先のことすらわからない私と違ってすべてを御存知の主が許されて起こるのであれば、主が必ず最善へと導いてくださるので、“どうして”、“なぜ”と疑問を持つことなく、唯信頼して主の時を待ち望みたいと思います。

先の心配をせず、二度と戻って来ることがない与えられているこの時を大切に、喜びと賛美、感謝に満たされて主にお仕えできる者となれる様、少しずつでも成長していきたいと願っています。そして主を崇め主の良き僕となって忠実に命令に従い、口先だけでは無く、日々の生活において行いが伴う者となれるよう、祈り続けていきたいと思ひます。





1、7月22日(日)のスイスJEGの礼拝は、夏休み中にも拘らず49名の出席者を得て(内、新来会者11名)現在、欧州に滞在中の前ジャカルタJCF・松本章宏牧師に「でもおことばどうり」をテーマに、ルカ5章1~11節から解き明かして

いただきました。通訳は、ウスターに引っ越しされたばかりのブラザー直美姉に御奉仕いただきました。生き生きとして深みのあるメッセージに呼吸がぴったりと合った通訳は、実に素晴らしいものでした。録音ミスのために、この日の説教は音声でお届け出来ませんが、説教原稿をニュースレターに添付しましたので、お読み下さい。火曜日に寄留地オランダに帰られた松本先生から、お便りが届いています。

「アルプスの少女ハイジ」が大好きな正子が子どもの頃から憧れていたスイスに初めて来て、スイスにある日本語礼拝で説教させていただいたことを心から感謝しています。

私は1988~89年にかけて札幌にあるOMF日本語センターで教えました。その時日本語を学ばれたゲルスタ先生が、19年前に一時帰国した時に始められた教会であったことを知り、よりいっそう親近感を覚えました。

その後も19年間、福音の灯火をしっかりと掲げて歩いて来られた皆さんと一緒に捧げることのできた礼拝は、私たちにとって大変思い出深いものとなりました。

バイリンガルの礼拝ということもあり、両国の方々がたくさん来られていて、大変活気があり、説教をしながら喜びが湧き起こってきました。礼拝開始10分前に初めてお会いした直美さんですが、息がぴったりと合い、とても自然な雰囲気を通訳をしてください、たいへんありがたかったです。

会衆の皆さんもよく応答してくださって、一体感のある礼拝となりました。これからますます神様の祝福の中で成長して行かれることを容易に想像することができました。

もちろん、様々な難しさや課題はあるだろうと思いますが、これからも優しい天のお父様を見上げながら、お互いに愛し合っていて、素晴らしいキリストの体をスイスの地に建て上げて行かれますようにお祈りさせていただきます。

松本章宏



2、翌23日(月)は午後2時から、チューリッヒ市郊外のヘス美姉宅にて家庭集会在持たれ、松本牧師ご夫妻を交えて、聖書のお話を聞き、豊かな交わりのときを持つ事ができました。ヘス姉が、この日の集会を報告してくださいました。なお、松本章宏牧師ご夫妻のスイス滞在中の出来事や印象は、ブログ「渡り鳥夫婦」<http://akimasatomjun.blog.fc2.com/>でお読み頂けます。

23日は14時からうちで家庭集会を開かせていただき、大変感謝しています。総勢15名の出席者が与えられ、素晴らしい天候の中、22日の主日礼拝に続き、また松本先生から御言葉を語っていただきました。聖書の話は生まれて初めて!という方もいらっしゃいました。

子ども達には、奥様の正子さんが、しまじろうとゴリラのぬいぐるみを使って、神様のお話をして下さいました。御言葉を聞いた後、皆さんでティータイム、その後夕食をいただき、楽しい交わりを持たせていただきました。

20時前後にはほとんどの方が帰宅されましたが、もっと話をしたい!という方は残られて、先生と信仰について沢山お話が出来ました!松本先生ご夫妻をスイスへ送ってくださった神様に感謝しています。

3、9月9日(日)礼拝と愛餐会の間に、CS主催で**良きサマリヤ人のイベント**が開かれます。これは、アフリカではマラリアのため命を落とす子ども達の数が膨大で、World Vision http://www.worldvision.jp/about/newsletter_0058.html が5フランで一つの蚊帳を購入しアフリカに送る事によって幼い命を救おうとする運動の一つです。5フランのゲーム券を購入していただき、素敵な景品を当てて、同時に蚊帳を贈るというイベントです。多くのみなさまの参加をお待ちします。(詳細は8月にお知らせします。)



4、2013年のスイスJEGの修養会は6月7日(金)夕刻から、9日(日)のお昼まで、スイス・テシン州マジヨーレ湖畔に建つキリスト教ホテル Casa Moscia <http://www.casamoscia.ch/>で、開かれます。スイスJEGの歴史として初めてのイタリア語圏での開催で、ミラノ賛美教会との共同開催となります。講師には中野雄一郎牧師(マウント・オリーブ・ミニストリー主宰<http://www.monhawaii.org/>)を予定しています。南欧の雰囲気さえ漂う美しい自然環境で開かれる修養会の開催日を、今から覚えていただき、一人でも多くの兄弟がこの恵みと祝福に与れますようにお祈りしています。

5、ハンブルグ日本語福音キリスト教会は20年間礼拝を守ってきた会堂から、もっと立地条件が良い教会に引っ越しされ、新しい礼拝堂での第一回目の礼拝が7月8日に持たれました。これから更に多くの日本人が集うことであろうことを期待し、祈りたいと思います。ハンブルグ日本語教会のHP：www.nd-jcf.de

6、オーニング宣教師およびラシェンコ・ベラ宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メールマガジン186号(西海岸コンサートツアー報告)、吉村美穂NL64号、井野葉由美メルマガ89号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信が届いています。読まれたい方、定期的な受け取られたい兄弟は松林までお知らせください。



7月22日 礼拝/愛餐会のスナップ

日出ずる国から

神様のネットワーク 大阪市は城東区の 福森真樹姉から

大変ご無沙汰しています。大阪（元ハンプブルグ→フランクフルト→パリ）の福森真樹です。いつもニュースレターをお送り下さり有り難うございます。約10年に亘る在独・在仏時に会いやお交わりの機会をいただいたスイス教会のみなさまを懐かしく思い浮かべながら読ませていただいております。

今回いただいたお知らせで斉藤篤美先生のご帰天を知り、とても驚いています。明子先生はじめ、ご遺族の上に主の格別の慰めがありますよう祈ります。

沢山の教えを頂いた中で、今蘇ってくるのは、あの穏やかな表情を引き締められて「教会は響き合う共同体でなければならない」と語っておられたお声です。凱旋された先生といつか恥じることなくお会いできる歩みをしたいものです。お知らせ下さりありがとうございました。



「パリ教会からの帰国者を中心に月に一度バイブルスタディの集いをもって丁度1年が経ちました」

p.s.先達で知り合いから昨年のクリスト者の集いでピアノを弾かれた女性の名前を尋ねられ、参加していないのでわからないと答えようかと思ったところで、はっと思い立ち、いただいた「参加者の証集」を読み返してみたらその女性、赤

津ジュリアさんのお証が見つかり、助かりました。有り難うございました。

ちなみにその知り合いとは、主人の故郷・滋賀県信楽の教会を牧していらっしゃるウィリアムズ先生（元エディンバラ）の奥さま富由姫先生です。神様が編まれるネットワークは本当に素敵です。

帰国されたクリスチャンへ 滋賀県は信楽市の ウィリアムズ富由姫牧師から

英国エジンバラ日本語教会での牧会から、現在、陶芸で知られる滋賀県の信楽で牧会させて頂いているウィリアムズ富由姫（とみゆき）です。英国時代から、スイス教会のニュースレターを愛読させていただいています。今は、遠くなったヨーロッパですが、ニュースレターを通じてみなさまを身近に感じております。娘のグレースが結婚してデュッセルドルフ近郊に住んでいますので、オランダでの修養会の後、訪れる予定です。



信楽キリスト教会では、英会話教室を通して、地域の方々の救いのために働いています。

こども8名と大人13名が毎週来ています。月一回第三日曜日の夜7時半から、賛美と証し、ショートメッセージによる「イギリス風ティータイム」を催しています。ここでは7月15日に初めて石野さんという63歳のノンクリスチャンが礼拝とイギリス風ティータイムに来られました。是非、石野さんが救われますようお祈りください。又、ゆいちゃんと言われる中学2年生の女の子がイギリス風ティータイムに初めて来ました。

9月16日は、ミュンヘンで奉仕されている安藤廣之先生が、イギリス風ティータイムに来て奉仕してくださいませ。お祈りください。また、信楽キリスト教会の信仰者が、祈る時間を通して主に近づき、みことばに従って生活出来るようお祈りください。

過日、WECインターナショナル宣教師と来年の集まりので件で祈り話しあってきました。集まりのビジョンは、せっか

く海外で信仰を持ったのに、日本に帰国してから信仰を失ってしまったり、5人の内4人が離れている現状を聞き、日本の地でつながりあい、サポートをする大切さを思い、この集まりを通して信仰が強められ、日本の地で用いられるようにというのがビジョンです。

来年、3月22日から24日まで信楽で、帰国者リトリート滋賀2013が開かれます。メッセージは、横山基生師、岩井清師（活水学院神学校学院長）、私ウィリアムズです。又、デボーション、証し、観光、陶芸作りなどがあります。関西方面に帰国されたお友達がいらしたら、ぜひお知らせ下さい。<http://kikokusha.blogspot.com/>



ANRC12にご参加下さい！ 東京はJCFN主事の 清水摂伝道師から



スイス教会のみなさまへ！みなさまが発行されるニュースレターは隅々まで楽しく読ませて頂いております。多岐に渡った情報や記事、証の

正直さの中にある神様の働きの素晴らしさ、記事にぴったりの写真、またこれらの数と内容の豊かさ、レイアウトのすばらしさ、彩の美しさ！トムセン千香子さんの証にも励まされましたし、特に被災地からの菊池君のレポートが興味深かったです。にっこりせずにはおれなかったのは、安藤先生と中村さんのやりとりでした。主にハレルヤ！

これを作るのにどれだけの時間と祈りが込められているのだろうと本当に読んでいる者には想像しかできないご奉仕の労がスイス教会のみなさまによってなされていることを心から感謝します！

わたしの気持ちと同じ方々は、言葉にはされていないかもしれませんが、読者の中には大勢いらっしゃると思います。また、このニュースレターがあるからこ

そ、スイス教会には多くの祈り手と支援者が与えられているのだと思います。

神様は日本宣教のために世界中に散らばっている日本語を話す人達にも福音を届けようとして下さっています。このニュースレターはまさにその証です！スイスだけでなく、ヨーロッパ中で行われている事はもとより、ヨーロッパで恵みを受けた人達が、日本へ帰国した後、いかに主の恵みを与えているかの証で満ち溢れています。



このスイス教会のニュースレターを読んでもらわれる方々は、私のように海外（アメリカ）で邦人宣教に携わっていたり、日本からスイス（海外）の邦人宣教を祈り、支えておられたり、すでに日本に帰国をされた方だと思のですが、皆さんにご紹介したいANRC12は、まさに皆さんのための大会です！

聖書の神様は、全ての人、また、物事に目的を持っておられます。あなたが



日本に住んでいても、海外に住んでいても、どこにいても、神様は「今」あなたがいるべきところに大切な目的を持って置かせて下さっていると確信します。ではその目的とはなんですか？それは、神様のあわれみがすでに私たちに注がれているのですから、それを私たちがしっかりと受け、そして、すでに神様が私たちを送り出して下さっている「今いるその場所」（家庭、友人関係、

会社、学校、教会、コミュニティー）で、キリストにある希望と愛を流し出すこと



ではないでしょうか？

2009年、2010年、そして今年、三回目の大会、All Nations

Returnees Conferenceのテーマは、今のこの日本、世界の中で活かされている私たちは、神様のあわれみを受けたのだから、神のあわれみの器として用いられるものになるう！というものです。（第一モテ1:16、ローマ9:23）

今年は、ヨーロッパからキリスト者の集いの賛美リードの奉仕をして下さっている工藤篤子さんがメッセンジャーの一人としてご奉仕をさせていただきます。工藤さんを中心に24日の夜、賛美のタベが用意されています。ここでは、グレイス・オーケストラ、また、ANRC12聖歌隊を結成し、様々な曲を共に賛美します。

海外におられる方、里帰りを兼ねて、日本に帰った仲間をフォローアップし、共に祈り、励ますために、彼らを誘って一緒に参加されませんか？



日本におられる方、世界中からの帰国者とその仲間と共に賛美をし、今のあなたの場所で主の器として更に用いられるために整えられませんか？

神の家族と共に交わり、祈り、賛美をし、おいしい食事、温泉、レクリエーションを楽しみ、癒され、強められるときとなること間違いなしです！お申込や大会に関する詳細情報は、ホームページをご覧ください。www.allnations.jp。

ぜひお友達にこの修養会をご紹介下さい。どなたでも大歓迎です！



巴里で受洗30年を感謝して

東京はユーオーディアの
蜷川いずみ姉から

スイス日本語福音キリスト教会の皆様、はじめまして。美しい夏をお迎えと思います。留学時代に訪れたスイスの自然の素晴らしさを思い出しています。この夏はパリ日本人キリスト者の集会で作田ご夫妻に大変お世話になり受洗して30年の記念の年を迎え、7月28日にパリ教会でユーオーディアの仲間たちと福音コンサートをさせて頂き、そのままオランダでの修養会に初参加しますので、どうぞよろしくお祈りいたします。お会い出来ることを楽しみにしています。ニュースレターを読ませて頂きながらスイス教会と皆様の上に、いつも主の祝福が豊かにありますよう、そしてスイスの邦人の救いのために貴教会が用いられようお祈りしていきます。



の夏はパリ日本人キリスト者の集会で作田ご夫妻に大変お世話になり受洗して30年の記念の年を迎え、7月28日にパリ教会でユーオーディアの仲間たちと福音コンサート

をさせて頂き、そのままオランダでの修養会に初参加しますので、どうぞよろしくお祈りいたします。お会い出来ることを楽しみにしています。ニュースレターを読ませて頂きながらスイス教会と皆様の上に、いつも主の祝福が豊かにありますよう、そしてスイスの邦人の救いのために貴教会が用いられようお祈りしていきます。

私はヴァイオリンの勉強で留学したパリで、イエス様を信じる信仰に導かれました。ヴァイオリニストとしての道、そして信仰者としての



歩み、どちらも素晴らしくも、時には厳しく感じることもありましたが。けれども、今ではただ主の憐れみと恵みにより、最高の道に生かされていることを本当に感謝しています。そして、すべてが主の御手の中にあり、イエス様を罪からの救い主として私の心にお迎えし、神をほめ讃える喜びの歌が生まれた時から、2つの道が主のご栄光を現すという唯一の目的のために、1つにされたことを確信しています。

帰国後、みことばに聞き、みことばに生きることを信仰の土台としている福音派の教会へ導かれたことも幸いでした。これまで、個人として、また、賛美を通し

て、キリストの香りを放つために、神様に集められたクリスチャン音楽家による一般社団法人ユーオーディアのメンバーとして、日本各地の教会、そして海外でも音楽を通して神の愛を賛美し証させていただいております。

私はパリ日本人キリスト者の集会（現在のパリ・プロテスタント日本語キリスト教会）に参加していた時、安部哲さんという素晴らしい信徒伝道者の生き様をとおして、救われた者が神の愛を知らない人々に福音を伝えることが、いかに大きな使命（マタイ28:19）かを教えられました。

それで、機会あるごとにイエス様の十字架上の愛をお伝えしようと思いました。チャペルがハードスケジュールになっても、頑張りました。しかし、行動する前に御前に静まり、祈り、日々に聖書をとおして御声を聞き、良い働きのために整えられなければ（第2テモテ3:16-17）、その働きは虚しいし、実を結べないことを痛感しています。

東京に引っ越ししました

東京都は東村山市の
高梨宣宏兄から

スイス教会の兄弟姉妹にはご無沙汰しております。なんのご連絡もせずすみません。実は今年1月1日付けで、急に東京に転勤になりました。家族も4月から転校してきたりと、ばたばたして、未だに引っ越し通知も出していない有様です。



東京は、東村山市に引っ越ししました。最寄駅は西武池袋線/武蔵野線の秋津（新秋津）で

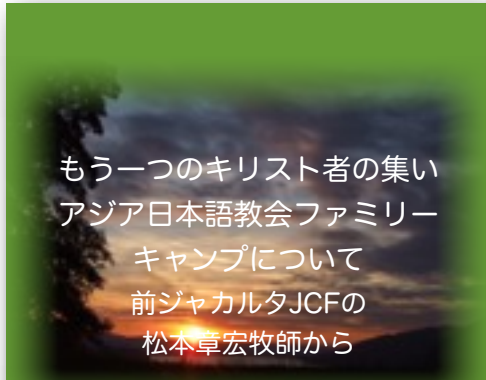
す。教会は、今までの教団（インマヌエル）の教会は遠いので、割と近くの滝山聖書バプテスト教会というところへ通っております。

長女のあいみは中3で愛知の公立高校に行く気満々だったところ、訳の分からない都立のどこか高校へと志望変更せざるを得ず、戸惑いつつ、受験生しております。ただ1年違っていたら、私が単身赴

任せざるを得なかったと思われるので、ある意味では大変で可哀そうですが、家族的には転勤になるのであれば最善の時期だったのかなと思います。

中2の恵司、小4のゆうみも何とかスムーズに転校先にも慣れてきており、親としては一番ホットしている部分です。友子は相変わらず家族で一番順応し、東京ライフを満喫しています。最新のニュースは、映画監督の宮崎駿さんと近所の散歩友達？になって、相変わらずの社交家ぶりに、まわりがビックリしています！

私も16日で45歳！（スイスに居た時は28歳！）ですが、皆様もいろいろ大変なところもあられるのかとは思いますが。ニュースレターによってみなさまを覚えてお祈りさせていただきます。教会に祝福が豊かにありますように。



アジアの各地にも日本語教会が点在しています。その中の一つ、ジャカルタ日本語キリスト教会（JJCF）で私は2005年から2012年まで牧師として働きました。ヨーロッパでは20数年も前から毎年ヨーロッパキリスト者の集いなるものが開催されているとお聞きし、アジアでもそんなことができたなら幸いという思いをもっていました。

が、アジアの面積は広く、それぞれの国で文化も宗教も違い、休日もバラバラであることから、一堂に会することは難しいと思い込んでいました。そんな中、2008年にアンテオケ宣教会が香港で世界宣教セミナーを開催し、私も参加しました。そこにはアジア各地の日本語教会のリーダーも集まり、夕食の席で、アジアでのリトリート開催に向けて心を合わせて祈るときを持ちました。

翌年、シンガポールJCFの3b-z（「賛美一ズ」と読みます）のメンバー9名が自費でジャカルタに来られ、賛美の奉仕をしてくださる中で主が豊かに働かれ、信仰告白と洗礼に至る方が複数起こされました。

これまでアジアの日本語教会は孤軍奮闘して来ましたが、主はこのような協力関係を喜ばれ、祝福してくださるということを経験することができました。

そして、2010年2月に各地の教会のリーダー約30名が再び香港に集まり、アジア宣教フォーラムを開催し、翌年インドネシアでリトリートを行うことを決めました。

こうして私が事務局となり、2012年1月31日～2月2日、バリ島で第1回 アジア日本語教会ファミリーキャンプが開催され、約80名が参加しました。



そのとき私に与えられた幻は、バリ、スラバヤ、ジャカルタ、シンガポール、クアラルンプール、デリー、バンコク、香港、上海、ソウル、日本、マニラ・・・各地のクリスチャンと一緒に網を引き上げる時、生きの良い魚がたくさん神の国の網の中に入ってくるというものでした。

2012年は7月にソウルでアジア宣教フォーラム、そして、2013年は3月に再びソウルで第2回アジア日本語教会ファミリーキャンプがさらに大きな規模で開催されます。良い模範となってくださったヨーロッパの皆さんに心から感謝しております。

